

## 緑の屋根 特別号

### 令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

4月17日に小学校6年生を対象として文部科学省の全国学力・学習状況調査が実施されました。その結果を受けて本校の傾向と課題を分析しましたので、今後面向けた取組等をお知らせします。

#### 1 調査の目的

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、成果と課題を検証しその改善を図る。

#### 2 調査内容

##### (1) 学力調査結果

- ・国語は、全国や県の平均正答率と同等でした。
- ・算数は、全国の平均正答率をやや下回り、県の平均正答率と同等でした。
- ・理科は、全国や県の平均正答率をやや下回りました。

##### (2) 本校の傾向

###### <国語>

知識・技能において、全国や県の平均正答率を上回った。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「情報の扱い方に関する事項」の正答率が高く、文中で漢字を正しく使ったり、情報と情報との関係付けの仕方を理解し使用したりしている。思考力・判断力・表現力の「話すこと・聞くこと」「書くこと」において、全国や県の平均正答率を下回り課題が見られた。「読むこと」に関しては、国や県と同等の正答率であった。「話すこと・聞くこと」では、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えたり、相手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめたりするところが課題である。「書くこと」では、目的や意図に応じて文章の構成を考えたり、書き表し方を工夫したりすることに課題が見られた。

###### <算数>

知識・技能においては、全国や県の平均正答率と同等であったが、思考力・判断力・表現力では全国や県を下回った。「C 測定」や「C 変化と関係」の領域では、はかりの目盛りを正確に読んだり、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだしたりしている。一方、「A 数と計算」や「D データの活用」では、棒グラフから項目間の関係を読み取ったり、示された資料から、必要な情報を選び、数量関係を式に表し計算したりすることに課題が見られた。

###### <理科>

知識・技能においては、全国や県の平均正答率と同等であったが、思考力・判断力・表現力では全国や県をやや下回った。「生命」を柱とする領域では、ヘチマの花のつくりや受粉についての知識や顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いている。また、「粒子」を柱とする領域では、水の温まり方について、実験の方法が適切であったかを検討し表現したり、水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現したりしている。一方、「エネルギー」を柱とする領域では、電気の回路のつくり方や、電流がつくる磁力についての知識に課題が見られた。また、「地球」を柱とする領域では、赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いや結果や問題に対するまとめを基に、他の条件での結果を予想し表現することに課題が見られた。

###### <児童質問紙調査>

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査結果

###### <学校生活への満足>

- ・本校児童は、学校に行くのが楽しい。また、先生はよいところを認めてくれていると思っている児童が全国や県の平均より多い。

- ・いじめに対する意識が全国や県の平均に比べて高い。

#### 〈基本的生活習慣〉

- ・本校児童は、規則正しい生活は送れているが、「朝食を毎日食べている」と答えた児童が全国や県の平均よりも少ない。

#### 〈キャリア形成〉

- ・将来の夢や目標を持っている児童の割合は全国や県と同等で、「人の役に立つ人間になりたい」と答えた児童が全国や県の平均に比べて多い。

#### 〈ＩＣＴ機器の学習への利用〉

- ・学習の中でタブレットなどのICT機器を活用できる児童の割合が全国や県に比べて高い。

#### 〈主体的・対話的で深い学びについて〉

- ・各教科や道徳、学活などで、「友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と答えた児童の割合が全国や県の平均に比べて多い。

### (3) 今後の方策

#### ○国語

##### ①「書くこと」の指導の充実

相手意識、目的意識をもたせた書く指導を行っていく。授業の振り返りやミニ新聞などで、時間を区切り、初めは短い言葉から、少しづつ長い文章が書けるような活動を継続して行っていく。また、書いたら読み合い、推敲することを習慣づける。

##### ②「話すこと・聞くこと」の指導の充実

目的や意図に応じて、相手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる力を身に付けられるように、ミニスピーチ活動を取り入れ、賛成、反対、疑問等の意思表示ができるように指導していく。国語の授業に限らず、教科横断的な視点でねらいを設定し、話し合いの時間を設定していく。また、考えたことを表現できるように、リアクションカードを用いて段階的に支援していく。

#### ○算数

##### ①「思考力・判断力・表現力」の指導の充実

目的を明確にしてICT機器を活用し、図やグラフ等を操作しながら考えを深めたり、自分の考えを分かりやすく相手に伝えたりすることができるようになっていく。課題解決に向けて、自分で考え、工夫しながら取り組めるように支援していく。

##### ②基礎的な力を身に付ける指導の充実

既習内容の定着を図るために、個々の課題等を伝え、自主学習においてめあてをもって継続して取り組めるように支援していく。また、単元末テストにおいて一定の基準を設け、再テストを実施し学習内容の定着を図る。

#### ○理科

##### ①「思考力・判断力・表現力」の指導の充実

日常の言葉や事象に対する、子どもの興味、関心を引き出す導入を行っていく。また、授業内容を工夫し、実験や観察が多面的に調べる活動になるようにする。

##### ②「知識・技能」を身に付ける指導の充実

実験や観察などに関する技能を身に付けられるように、活動時は一人一人が何かしらの役割を担い実験や観察に取り組めるようにしていく。また、結果から考察する時間を充分に確保し、正しい知識を身に付けられるようにしていく。

